

新進気鋭の理事長の
イチオシ

経営力を
上げる

今月のおすすめ本

vol.23

“人の集まる場づくり”の
刺激を受けた書籍たち

小野 薫

おのクリニック院長



おの・かおる ● 1994年、山口大学医学部卒業。同大学第二内科（現循環病態内科学）に入局。その後、新南陽市民病院内科医長を経て、2007年、おのクリニック開設。18年、移転し、現在に至る。



『自分の仕事をつくる』
西村佳哲 著
筑摩書房
760円＋税



『“集患”プロフェッショナル
一腕の良い医師が開業しても
なぜ成功しないのか』
柴田雄一 著
医学通信社
3200円＋税



『人が集まる「つなぎ場」のつくり方—都市型茶室「6次元」の発想とは』
ナカムラクニオ 著
CCCメディアハウス
1400円＋税

自分なりの医療サービスの体現を目指し開業したのが2007年のこと。心地よく、デザイン性に優れた建物や家具、本やアートのある空間を大切に、患者さんにも喜んでいただくうちに、「診療だけの場ではもったいない、人の集まる場にしたい」と思い、18年に移転。ライブラリやカフェを併設する診療所をつくった。今回は、その過程で刺激を受けた本を紹介する。

西村佳哲氏の『自分の仕事をつくる』は、開業前に読んで「仕事」「デザイン」「つなぐ」などの視点に気づき、自分の方向性に自信を持った一冊だ。移転計画中は本書に登場する馬場浩史氏が開いた、栃木県益子町のカフェ「starnet」を2度訪れた。不思議な縁で、益子町で育った靴職人とブックディレクターとつながり、ライブラリでイベントを開催する予定だ。憧れた馬場氏は55歳で早逝された。自分が今を生かされていることに感謝し、できることを精一杯したいと思う原動力になっている。

次は、柴田雄一氏の『集患プロ

フェッショナル』。昨今こそ良書が増えたが、開業当時、診療所経営の本は乏しく、親が開業医というわけでもない私にはわからないことだらけだった。本書は小説形式で、診療所運営やマーケティングを楽しく読みながら学べた。当時、柴田氏の講演を聴く機会があり、感化されやすい私は講演後、「相談に乗ってください!」と握手した記憶がある……。

最後は、ナカムラクニオ氏の『人が集まる「つなぎ場」のつくり方』。“ひとが集まる場”として、カフェ、ライブラリに興味があった私は、関連書籍を読み漁り、さまざまな場所に足を運んだ。なかでも、本書と『街を変える小さな店』（堀部篤史著）には刺激を受け、カフェとライブラリの併設に至った。診療所は、1日に多くの人が集まる場。まちづくり、地域包括ケアシステム構築の「つなぎ場」としての存在意義を意識する必要があるのではないかな。

これから、もっと地域に、街に貢献したいと考えている諸先生方のご参考になれば幸いである。